



Domaine
HENRI REBOURSEAU

PROPRIÉTAIRE
GEVREY-CHAMBERTIN



**堂々たる風格を持つ熟成ブルゴーニュをリリース！
将軍の名を冠したジュヴレイ・シャンベルタンの雄！**

Domaine Henri Rebourseau/ ドメーヌ・アンリ・ルブルソー

所在地：Bourgogne/ブルゴーニュ（フランス）

Gevrey Chambertin/ジュヴレイ・シャンベルタン

ドメーヌ・アンリ・ルブルソーは、クラシックなワイン造りに定評があり、ワインラヴァーの間で根強い人気がある名門ドメーヌです。ジュヴレイ・シャンベルタン村に位置するドメーヌの起源は、19世紀にネゴシアン、フィリポンの樽職人としてやってきたジャン＝バティスト・ルブルソーに遡ります。1919年、その息子のアンリ・ルブルソー将軍がジュヴレイ・シャンベルタン村の畑の中にあった18世紀に建てられた荘厳な造りの邸宅とその周囲の畑を購入。その後息子のピエール・ルブルソーがドメーヌとして繁栄させました。現在はブルゴーニュとして広大な約13.5ヘクタールのブドウ畑を所有。そのうちの約半分が絶好の条件下の特級畑です。

1980年、アンリ・ルブルソー将軍のひ孫にあたるジャン・ドゥ・シュレルがドメーヌを引き継ぎ、ビオロジックの実践などの改革を行います。また2001年より機械収穫がテストを繰り返したあと、ドメーヌとのアクセスに適したロジスティクスを備え、土地が平坦で長い列があり、丈夫で若いブドウの樹が植わっているジュヴレイとクロ・ドゥ・ヴージョの「限定的な区画」で実践されました。（機械収穫は所有畑全体では行われず、2009年にビオディナミが開始されたときに削減され、その後ももなく完全に停止されています）またジャンは2008年よりジュヴレイ・シャンベルタン村の全グラン・クリュの組合長に就任。人望の厚さを伺うことができます。

このドメーヌのワインは、最近のエレガントなワインとは一線を画し、堂々とした風格と共に立体感と躍動感があります。ジャン・ドゥ・シュレルの「いいワインを造ろうとしたら、実はいい造り手になろうとしないこともまた大切」というある意味逆説的な考え方のもと、あまり造り込みをせず、土壌を理解し、土地そのものの生のエネルギーを伝えることに一番の重点が置かれている為、ワインもまたそのエネルギーに溢れる躍動感に満ちたスタイルに仕上がっています。また「ピノ・ノワールは熟成させて楽しむもの」という信念のもと、生産の半分はカーヴでボトル熟成させて、飲み頃と判断してから販売するスタイルを貫いてきました。飲み頃を迎えた熟成ピノ・ノワールを楽しむことができるのもこのドメーヌの大きな魅力のひとつとなっています。

2016年以降、息子のレイとベニンに醸造や販売の大部分を任せ、ジャン・ドゥ・シュレルは彼らを後ろから支えるという運営形態に変容。2018年にシャトー・モンローズ等を所有するブイグ兄弟に株式を51%譲渡し、ドメーヌの所有権こそ移りますが、実質的な運営は今までと変わらずシュレル家が行っています。レイはマーケティングを学びドメーヌの戦略の舵を取っており、弟のベニンはポーヌで醸造学を修めた後、ブルゴーニュの生産者では珍しくボルドーで修業を積んでおり、ブドウ栽培、醸造を取り仕切っています。最新醸造設備の導入、銅の使用35%削減、ブルゴーニュでは2例目となる専門機関（Geocarta社）での土壌分析による個々の畑のデータ集積、果汁への負荷軽減の為のグラビティシステム（ポンプを使わずに重力による液体移動）導入、常時6、7社から樽メーカーを厳選、協議による品質向上を目指したテイastingチーム（12人）の結成、ボルドーも含めたドメーヌ外の生産者との情報交換等、彼らが行った変革によりワインの品質は格段に上昇したとされ、圧倒的な注目を集めるようになりました。ジュヴレイ・シャンベルタン最上の造り手を目指した新生アンリ・ルブルソーがスタートしています。

